

。○。○。○。○。○。○。

下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2015. 11. 30

下水道機構の『新技術情報』 第213号

(公財) 日本下水道新技術機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

。○。○。○。○。○。○。

2週間ぶりのメルマガです。先週はお休みさせていただきましたm()mさて、今日で11月も終わりですね。師走はなにかと慌ただしくなりますが、みなさま、風邪など体調管理にはどうぞお気をつけください。

それでは機構メールマガジン『新技術情報』第213号をお届けします。

業務に、Tea Breakにどうぞご活用ください。

◆◆◆トピックス◆◆◆

■インフォメーション

- ・12月10日の技術サロンは、公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会 技術第二部長 屋井 裕幸氏をお迎えして開催します！
- ・第62回下水道新技術セミナー（11/11@東京、11/24@大阪）を開催しました

■機構の動き

- ・今週は、12/1(火)に新技術現場研修会を、12/2(水)に技術委員会を開催します

■Tea Break

- ・神田川 (技術評価部 専門調査役 吉川静雄さんからの投稿です)

■まる子のゆいまーる♪

- ・本日は、お休みしますm()m

■国からの情報

- ・11/30付下水道ホットインフォメーション

。○。○。○。○。○。○。

インフォメーション (最新の話です)

。○。○。○。○。○。○。

- 12月10日の技術サロンは、公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会 技術第二部長 屋井 裕幸氏をお迎えして開催します！

『雨水貯留浸透技術の現状と課題』をテーマに、都市型洪水や河川の水質悪化、地

下水枯渇などの課題に対し、都市の水循環を改善し都市に「うるおい」を与える大切な技術として大きな期待が寄せられている雨水貯留浸透技術についてお話いただきます。

お申し込みはこちら→ <http://www.jiwet.or.jp/trainings/tech-salon/salon-form>

●第 62 回下水道新技術セミナー（11/11@東京、11/24@大阪）を開催しました

東京会場は東京都港区の発明会館、大阪会場は大阪市西区の大阪科学技術センターで開催し、両会場合わせて約 190 名の方が出席されました。

今回のテーマは「下水道における浸水対策の推進について」です。近年の集中豪雨や台風などによる被害の増大、また下水道法・水防法の改正などの関連法制度の整備を背景に関心が高まっている「浸水対策」をテーマとして設定し、最新の知見や国の方針、自治体における取組事例、先進技術等について専門家や当該業務に携わる自治体の方を講師にお迎えして、ご講演いただきました。

基調講演として、東京会場では、東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター古米教授より「都市浸水対策の高度化に向けて」、また、大阪会場では、関西大学環境都市工学部都市システム工学科石垣教授より「記録的水災害による浸水と地下空間浸水対策」と題し、浸水対策に関する最新の知見についてお話いただきました。その他、特別講演として、国土交通省水管理・国土保全局下水道部加藤流域管理官（東京会場）、小川流域下水道計画調整官（大阪会場）より、国における浸水対策の取り組みについて、さらに各自治体における事例報告として、福岡市道路下水道局計画部津野下水道計画課長（大阪会場）・藤原計画係長（東京会場）、福知山市上下水道部大槻次長兼下水道課長にご講演いただきました。併せて、当機構の研究第二部下村部長より、最近の雨水管理技術に関する研究の概要についてご紹介させていただきました。

本セミナーの講演内容については、講演ダイジェスト（基調講演・特別講演）を下水道機構情報 No. 21 にて平成 28 年 1 月頃に配信します。また、セミナーの資料については、準備が整い次第、会員サイトにアップをする予定です。

。 。 。

機構の動き （機構の行事予定です）

。 。 。

●平成 27 年 12 月 1 日（火）14：00～16：30 受付 13：00～

行 事：第 64 回（平成 27 年度第 1 回）新技術現場研修会

場 所：横浜市川井浄水場（横浜市旭区上川井町 2555 番地）

集合場所、集合時間：小田急江ノ島線、東急田園都市線中央林間駅 13：30 集合

解散場所：小田急江ノ島線、東急田園都市線中央林間駅

※川井浄水場～中央林間駅の移動（往復）は当機構がチャーターした貸切バスにより移動いたします。

対象者：下水道機構の出捐団体・賛助会員及び公共団体等の下水道技術者

定 員：45 名

●平成 27 年 12 月 2 日(水) 10:30~16:20

行 事 : 平成 27 年度 第 2 回技術委員会

場 所 : 機構 8 階 特別会議室

案 件 : 各委員会の調査研究報告についての審議

○平成 27 年 12 月 10 日(木) 17:00~18:00

行 事 : 第 343 回技術サロン

場 所 : 機構 8 階 中会議室

ゲスト : 公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会 技術第二部 部長 屋井裕幸 氏

テーマ : 『雨水貯留浸透技術の現状と課題(仮題)』

→ <http://www.jiwet.or.jp/trainings/tech-salon/salon-form>

。○。

Tea Break (機構職員の感じるまま)

。○。

●神田川 (技術評価部 専門調査役 吉川静雄さんからの投稿です)

♪あなたは覚えているかしら～。♪窓の下には神田川～。フォークソングに歌われ、全国的に知られた神田川。下水道機構がある江戸川橋の建物7階から窓の下を見ると、川の上空を首都高速道路5号線に覆われてはいるが、神田川を見ることが出来る。この神田川、四季折々、私たちの目を楽しませてくれる。

4月には上流の江戸川橋公園で散った桜の花が川面に花筏となってゆっくりと流れてくる。初夏には、赤紫のつつじの花びらが、秋には赤や黄入りに色づいた桜の葉がポツポツと、川幅いっぱいに広がりながら流れている。さらに、これらの花葉の下には、体調1メートルもあろう巨大な緋鯉が悠然と泳いでいるのが見える。そして、時々、水面の花葉は止まったり、上流へ流れを変えることがある。

神田川もこの付近は東京湾から隅田川を通して流れ込む潮の影響を受けている感潮河川なのだ。潮の満ち引きの影響は、江戸川橋の上流に位置する大洗堰(関口)で解消される。

さて、この大洗堰は江戸時代に神田上水の取り入れ口として築かれている。江戸の町が拡大するにつれ、家康の時代に使われていた小石川や赤坂溜池の水だけでは生活水が足りなくなり、二代将軍秀忠が、水源として井之頭池に目をつけ、そこから小石川の関口まで堀を掘って水を引き、関口に大洗堰を設けて水位をあげ、神田川に並行して素掘りで水道橋あたりまで水を引き、さらに、そこから架樋(水道の橋)で濠(神田川)をまたぎ、対岸の神田、日本橋、京橋方面に給水したそう。配管は地下樋(石樋、木樋など)でできており、一部は圧力管の技術を取り入れ、深く掘り下げることもなく平坦地への供給を行っている。神田上水は、その後、明治時代まで利用され、明治34年6月に上水としての利用が廃止されている。

この神田川も昭和の時代に入ると、流域の市街化が急速に進んだことから、水害の危険性が高まり、治水上の必要性からほぼ全域が現在の三面コンクリートの直立護岸となってしまった。加えて、川の汚濁が進み、昭和39年ころには都内ワースト2に入

るほど汚れた川と化してしまった。その後、下水道の普及が進み、現在は沿線の合流改善の効果も表れ、アユも遡上するほどにまで水質が改善されてきている。

しかし、この神田川には今でも下水道の吐口が多く（335箇所）あり、降雨時には、希釈された汚水が雨水とともに放流され、汚濁川となる。江戸川橋から下流の飯田橋にかけては、華水橋、小桜橋、白鳥橋など美しい名前の橋が並んでいるが、大雨の時は橋の名前も悲しく、もう少し綺麗になってほしいところである。

一方、流域の急速な市街化による影響で大雨が降ると神田川はすぐに氾濫し、住宅地では浸水被害が何度も繰り返されてきた。地下鉄有楽町線「江戸川橋駅」周辺の関口一、二丁目付近も水害に悩まされてきた。昭和56年には、事務所裏手の地蔵通り商店街で1.5mも浸水があったとの記録がある。これらに対処するため、東京都では神田川の河積の増強を図り、事務所前の目白通りの地下に大空間（7.50m×7.15m×2連、延長1644m）の江戸川橋分水路を建設した。また、地蔵通りの地下には大口径（内径2.6～3.25m）の下水道幹線（五軒町幹線）を敷設し、同時に枝線工事を実施した。以降、この付近の浸水被害は一気に解消され今日に至っている。さて、下水道機構を訪れる人は「江戸川橋駅」は神田川沿いなのに、なぜ「江戸川橋」なのか、不思議に思われるかもしれませんが、その昔、神田川中流の一部は江戸川と呼ばれていたそうです。そこにかかる橋なので「江戸川橋」と言われています。

。○○。

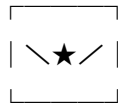
まる子のゆいまーる（皆様との交流の場です）

。○○。_____

●本日は、お休みします m()m

皆さまからの情報提供をお待ちしております！

提供はこちらまで→



jiwet@jiwet.or.jp

※テキストは原則400字以内。写真等はA4版にして原則2ページ以内。

なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、

掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。

=====

下水道ホットインフォメーション（2015. 11. 30 付 国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局下水道部下水道事業課企画専門官 本田康秀

=====

★★★★★ ラインナップ ☆☆☆☆☆

●12/4 次世代下水道小委員会講演会のご案内「MBR 技術の最前線」【土木学会環境工学委員会】

●1/22 研究集会（健全な資産管理のための一管路施設探査技術最前線）【NP021 世紀水倶楽部】

○国土交通省災害・防災情報 (<http://www.mlit.go.jp/saigai/index.html>)

=====

●次世代下水道小委員会講演会のご案内「MBR 技術の最前線」【土木学会環境工学委員会】

土木学会環境工学委員会では、次世代の下水道システムのあり方について議論・検討するための「次世代下水道小委員会」を国土交通省下水道部の協力のもと設置しており、より安全・高効率な下水道システムへの発展を目指した活動を展開しております。今年度より、下水道の実務を担当する自治体及び民間技術者への情報伝達を重視しようとしているところです。このたび、膜分離活性汚泥法（MBR）の研究者を招いた講演会を企画しました。最新の研究成果、膜処理技術の動向などについて密度の濃い情報を得られるまたとない機会となっております。講演会の最後には、聴講者の方々も交えた意見交換・総合討論も予定しております。皆様お誘い合わせの上ご参加下さいますよう、お願い申し上げます。

・主催：土木学会環境工学委員会次世代下水道小委員会

・期日：平成 27 年 12 月 4 日（金）14：00～17：00

・場所：東京大学本郷キャンパス工学部 14 号館 1F141 教室

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_15_j.html

・講演者：大熊那夫紀（造水促進センター）「MBR 市場拡大のための課題と対応策」
長岡裕（東京都市大学）「MBR 膜ユニット内の流れ場がファウリングに与える影響」

木村克輝（北海道大学）「MBR の省エネ化に関する研究」

・参加費：無料

・参加申込方法：参加される方のご氏名とご所属を電子メールでお申し込み下さい
（件名：「次世代下水道講演会申込」、メールアドレス：tk@eng.hokudai.ac.jp）

講演会当日まで申込可能です。

・問い合わせ先：北海道大学大学院環境創生工学部門 木村克輝

Tel: 011-706-6271

電子メール: kkatsu@eng.hokudai.ac.jp

●研究集会（健全な資産管理のための一管路施設探査技術最前線）【NP021 世紀水倶楽部】

これまで都市部に張り巡らされた下水道管は、約46万kmに達し、布設後50年を経過した管は、現在の約1万kmから毎年増えていきます。機能を維持し、長寿命化を図る体系的な取り組みが急務になっており、下水道施設維持管理指針が改定され管路のストックマネジメント導入などが追加されました。また、管路施設の点検・調査の義務化が今般の改正下水道法において規定されています。ストックマネジメントにおいては、施設の現状把握が必須ですが、膨大な延長の下水道管路と無数の取付管は、すべてが道路下であり、調査が難しく、費用を要することが、課題となっています。管路の状況を迅速かつ的確に、低コストで把握できれば、改築・更新等が系統的かつ計画的に実施できるのでスクリーニングを含む技術の開発が求められています。今回、管路状況の調査技術に焦点を当て、各種最新技術の現状を紹介するとともに、把握された管路の状況をストックマネジメントにどのように展開していくか、さらに、今後の技術開発の動向やマネジメントへの適用の見通しなどをお話しいたします。なお、今回の研究集会には月刊下水道の協力をいただいています。

- ・日時：平成28年1月22日（金）13:15～17:00
- ・会場：（公財）日本下水道新技術機構8階会議室（予定）
- ・プログラム：

○講演 13:20～15:30

アセットマネジメントのキーとなる技術

国土交通省国土技術政策総合研究所 下水道研究部 深谷渉主任研究官

東京都の管路内調査、道路陥没対策の取り組み

東京都下水道局 杉山純管路管理課長

画像認識型カメラ調査と車両牽引型空洞調査実施状況

日本下水道事業団 事業統括部 新井智明調査役

衝撃弾性波による管路調査について

（公財）日本下水道新技術機構 下村常雄研究第二部長

○全体討議 15:40～17:00

コーディネーター：（公財）日本下水道新技術機構 渡邊聡技術評価部長兼企画部長

- ・定員：50名程度（申込先着順、定員になり次第締め切らせていただきます）
- ・参加費用：会員、大学および公共団体等：無料
民間企業等：2千円
- ・申込み：21世紀水倶楽部ホームページ <http://www.21water.jp/>
研究集会参加登録フォームからお願いします
お申込みは平成28年1月10日までをお願いします
- ・問合わせ：E-mail: sympo-info@21water.jp
Tel: 03-3980-4657 担当：押領司（おうりょうじ）
- ・交流会：研究集会終了後、交流会（約1時間、参加費千円）を予定しています

「21世紀水倶楽部ホームページ」は、<http://www.21water.jp/index.htm>

・ ご案内の詳細ページは、<http://www.21water.jp/j-sched.htm>

発行元：公益財団法人 日本下水道新技術機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから → jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから

→ jiwet@jiwet.or.jp

○ニューズレターはこちらから

→ <http://www.jiwet.or.jp/newsletter/20151030/>
